

令和8年度

学 校 経 営 方 針

町田市立南第三小学校

校 長 工 藤 成

1. はじめに

(1) 子供の可能性を信じ抜く教師に

学校は子供のためにある。一人一人が人間として生きていくのに必要な基礎基本を身に付けさせ、可能性や個性を伸ばしていくのが学校の役割である。私たち教職員はどこまでも子供第一に考え、子供に尽くしていける存在でありたい。

(2) 自尊感情を高め、意欲あふれる子供の育成を

日々の授業、行事等を通して、達成感を育み自尊感情を高めていきたい。また、友達と協力し支え合う活動により、互いの良さを認め合い何事にも意欲をもって挑戦できる子供を育てていく。さらに、一人一人の子供を丁寧に見守り、いじめ防止対策を徹底し、健全育成への組織的な取組を確実に行う。

(3) 新たな教育課題への挑戦を

町田市教育プラン（2024～2028）を受け、学力・体力の向上、ICT を活用した授業実践と校務改善、えいごのまちだ推進事業等、新たな教育課題に向け積極的に挑戦していく。そして「学び続ける力」を育てていく。

(4) 特別支援教育体制の充実に向けて

全教職員が特別支援教育への理解を深め的確な対応が進められるよう特別支援コーディネータを中心にサポートルーム担当教員・専門員との連携を強めていく。また、チームで対応を進めていくための校内研修を定期的に行う。

(5) 地域から信頼される学校に

「チーム南三小」として学び合い、支え合う教職員の姿は子供たちの成長や学びにも大きな影響を与えるはずである。同時に、保護者や地域の方々からの学校への確かな信頼につながっていく。その上で、教育公務員として自覚をもち、サービス事故（個人情報漏洩、体罰、会計事故、交通事故等）防止の徹底を図る。

2. 教育目標・基本方針

町田市教育プランを踏まえ、生命尊重・人権尊重の精神に基づき、広く国際社会において信頼を得られる心豊かでたくましい人間性を育むと共に、未来への展望に立って必要とされる基礎的・基本的な資質・能力を培うことを目指し、教育目標を掲げ、次の基本方針で教育活動を推進する。

「よく考える子ども」

「心も体もたくましい子ども」

「仲よく助けあう子ども」

(1) 「よく考える子ども」の達成に向けて、

- ①指導方法や指導形態を工夫しながら、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。
- ②指導過程を工夫し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む。
- ③学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れ、学び向かう力を育む。
- ④学習の基盤をつくる活動を充実させると共に、家庭との連携を図りながら学習習慣を確立させる。

(2) 「心も体もたくましい子ども」の達成に向けて、

- ①自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、自己実現を図っていくことができるよう指導の充実を図る。
- ②学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるようキャリア教育の充実を図る。
- ③健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努める。
- ④家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。

(3) 「仲よく助けあう子ども」の達成に向けて、

- ①自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共により良く生きるための基盤となる道徳性を養う。
- ②移動教室や林間学校、ボランティア活動、自然体験活動、地域行事への参加を通して、豊かな体験を充実させる。
- ③道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図る。

3. 重点課題と方策（町田市教育プランの具現化）

(1) 学習指導

- ①発問や学習過程の工夫で「分かる授業」「できる授業」を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
- ②ICTを活用した授業実践に積極的に取り組み、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図っていく。
- ③地域の人材・教材を生かし、学びの楽しさを体験させる。
- ④各教科の特性に応じたノート指導を系統的に行い、思考を深める活動を通して学習内容の定着を図る。（国語2冊、社会2冊、算数4冊、理科2冊以上使用）
- ⑤個別学習やグループ学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れ、学習内容を確実に身に付けることができるようにする。
- ⑥クラウド型学習支援ソフトを活用し、一人一人の実態に応じた学習を進めると共に、家庭との連携を図りながら学習習慣を確立させる。
- ⑦全国学力・学習状況調査の分析結果等から、授業改善推進プランを作成し、実態に応じた指導の工夫を図っていく。
- ⑧南三小スタンダードの継続指導で、学習規律の確立を図る。
- ⑨言語活動と共に、読書活動の充実を図り、学習の基盤となる資質・能力を育成する。
- ⑩指導方法の工夫やALTの活用で、英語好きな児童を育てる。

- ⑪一校一取組や2020レガシー、小学校連合体育大会への取組を通して運動、スポーツへの興味・関心を高める。
- ⑫食に関する正しい知識や望ましい食習慣、生活習慣への理解を深めるために、学校給食を活用した食育を推進する。

(2) 生活指導

- ①いじめ防止基本方針の徹底やアンケートの実施でいじめの早期発見や早期解決、再発防止を図る。
- ②スクールカウンセラーの効果的活用、関係諸機関との連携で、児童の実態に応じた具体的な手立てを講じたり相談機能の充実を図ったりする。
- ③「考え、議論する道徳」授業の充実を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
- ④組織的な生活指導体制を機能させ、個々の実態に応じた適切な指導で、人格のよりよい発達を目指す。
- ⑤家庭と連携を深め、基本的な生活習慣を確立させる。
- ⑥情報モラルへの意識を高め、SNSルールの徹底や家庭への啓発を図る。

(3) 特別活動等

- ①授業や行事等を通して、達成感・充実感を味わわせる。
- ②体験学習等を通して、他者の役に立ったり社会に貢献したりすることの喜びを味わわせる。
- ③児童会活動やクラブ活動、異学年交流等を通して、関わり合う喜びを味わわせる。
- ④キャリア教育の視点を取り入れた活動の実施で、自分のよさや可能性を見付け、人と関わりながらたくましく生きる力を身に付けさせる。
- ⑤連合行事や学校行事、地域イベント等での発表を通して、表現の楽しさを味わわせる。

(4) 学校力の向上

- ①校内研究を通して、指導方法の研究を深め授業力向上を図る。
- ②OJT の計画的な実施とミニ研修会等で指導力向上を図る。
- ③小教研や研究発表会に積極的に参加し、研鑽を深める。
- ④校務支援システム C4th や Chromebook の活用で、校務の効率化や負担軽減を図る。
- ⑤定時退勤日（原則水曜日）に向け、業務の優先順位を明確にし、効率的な校務を行う。
- ⑥会議精査による時間の創出を図り、教材研究への集中や休暇取得を推奨する職場風土を醸成する。
- ⑦チーム南三小として、無理なく健康第一で働きやすい職場を目指す。また、教職員のメンタルヘルスの保持に向け、適切な対応をする。

(5) 地域の教育力の向上（コミュニティ・スクールの推進）

- ①学校運営協議会を設置し、地域と連携・協働しながら学校運営を効果的かつ計画的に進めていく。
- ②地域学校協働本部の設置で多様な学びを創出していく。